

# 富士見市 非核平和都市宣言

# 30周年

問合せ／秘書広報課 ☎241

**昭**和20年8月に広島・長崎に原爆が投下され、その残酷性が広く知れ渡りました。以降、世界各地で核兵器の不拡散や廃絶に向けた取り組みが行われ、今年7月には核兵器の保有や使用などを初めて法的に禁じた「核兵器禁止条約」が国連で採択されました。ところが、この条約への参加については足並みが揃わず、全世界が手を取った核兵器の放棄は実現していないばかりか、核兵器の開発を行う国すら存在する現状は、被害者やそのご家族の願いと逆行しているかのようです。

昭和59年に市議会で行われた「非核平和都市宣言に関する決議」に基づき、市が昭和62年に「富士見市非核平和都市宣言」を行ってから、今年で30周年を迎えました(宣言の全文は4ページ参照)。日本では、1980年代からこの非核宣言を行う自治体が増え、現在では約90%の自治体が宣言を行っています。願いはまだ実現に至りませんが、着実に根付いているのです。

原爆投下から72年。日常生活の中で、その事実を意識する機会は多くありません。しかし、世界で唯一の被爆国である日本に生きる私たちに、絶対に忘れてはならないものがあります。それが、原爆が投下されたあの日の記憶です。



①市内小学6年生916人が作成したピースメッセージ。②原爆に関するパネルやビデオ。③カスケードではフリーマーケットや模擬店が出店された。④マルチホールでは西中学校吹奏楽部や市民グループによる演奏、平和に関する俳句の発表、市民構成劇などが行われた。



## 宣言の理念を伝える ピースフェスティバル

**市**では、宣言の理念を市民に広げ、平和について考える機会として、毎年ピースフェスティバルを開催しています。今年度は7月1・2日にキラリ☆ふじみで行い、約3千500人が参加しました。

宣言と同じく30周年の節目となる今回は、市内小学6年生916人によるピースメッセージに加え、11万人の平和メッセージや平和に関する文芸作品、絵画などの展示が行われ、より市民の声を感じられるものとなりました。

市では、ピースフェスティバルをはじめ、平和憲法啓発事業として、平和の尊さを伝える取り組みを行っています。改めて戦争や平和を見つめ直し、その大切さを考えていくことが重要です。

## 思わず目を覆いたくなる 現実に目を背けず

7月1日の「市民平和祈念のつどい」で、非核平和都市宣言を皆さんの前で一緒に朗読しました。

私たちに戦争を体験した親族がいますが、辛い過去を思い出させてしまうのではと遠慮して、詳しく聞けません。また、原爆や戦争に関する資料は悲惨なものが多く、避けてしまいがちです。ですが、怖くても直視しなければならぬ事実だと思えます。友だちや先輩後輩たちに、思わず目を覆いたくなる惨劇に目を背けず、学び、語り継いでいかなければならないのだと伝えたいです。



西中学校吹奏楽部  
部長 森田愛菜さん(右)  
副部長 前田菜摘さん(左)

市役所本庁舎正面入り口そばにある平和の鐘と青桐の木。平和の鐘は平成7年に戦後50周年を記念して建てられ、以来ピースフェスティバルが行われる日に市民が集まって鐘を鳴らし、黙とうをささげ、平和を祈念している。青桐の木は、広島の子原爆の被害から蘇った青桐の木の種から育ったもの。

## 鶴瀬公民館 平和憲法啓発事業

非核平和都市宣言の理念を広く市民に伝えることを目的として実施しています。

### ●ピースフェスティバル

毎年7月に実施。  
平和展示コーナー、市民平和祈念のつどい、愛と平和のコンサート、市民構成劇、キッズ&若者ライブ、模擬店・喫茶・体験コーナーなどを行います。

### ●広島平和記念式典市民派遣事業

毎年8月に実施。  
広島市平和祈念式典に2人の市民を派遣します。

### ●戦争体験市民派遣事業

市内在住で戦争を体験した方々を派遣し、当時の体験を語っていただいています。

### ●平和学習会

毎年、さまざまな角度から平和についての学習会を行います。

問合せ／鶴瀬公民館

☎049-251-1140